

災害時の輸送体制確立へ

災害時における緊急輸送協定調印

2月16日、役場庁議室において、氷川町と公益社団法人熊本県トラック協会が「災害発生時における物資等の緊急輸送協定」を締結しました。

これは災害発生時に町からの要請に応じ、県トラック協会が物資などの輸送を行うことについて、必要な事項を定めたもので、生活必需品、緊急対策に必要な資機材の輸送の他、物流専門家によるアドバイザー業務が想定されています。

調印を終えた藤本町長は「大変心強い協定を結ばせてもらった。災害発生時の物資の輸送はプロに頼るところが大きい。いざというときはよろしくお願いします」と述べました。



▲協定を結んだ県トラック協会の岩下哲三会長(右)

未来へ向け設計図づくり

人農地プランに関する説明会

2月17日、役場大会議室において、人・農地プランに関する説明会が行われ、農業者など48人の出席がありました。

人・農地プランは、高齢化や後継者不足などが原因で、将来の農業の展望が描けない集落などが増加していることから、地域で解決策を話し合い、プランを作るものです。

参加者からは「現在、後継者はいるが10年後のことを心配する」「魅力ある農業を目指し、後継者不足を解消したい」など活発な意見が交わされました。今後も年1回程度開催し、地域の将来展望が描ける「よりよいプラン」を目指していきます。



▲活発な意見交換が行われました

海外へ県産畳表をPR

畳表ベンチを国際博覧会へ発送

2月19日、い業関連団体で構成する熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会がミラノ国際博覧会向け「いぐさ・畳表ベンチ」を発送しました。

これは、県産畳表の新たな需要の創出を目指すため、5月から開催されるミラノ国際博覧会で、和の食と文化の紹介を行う日本館の中に「いぐさ・畳表ベンチ」18脚を置き、産地と連携したいぐさ・畳表の情報発信を国内外に行うものです。

ベンチは、側面を格子状に和紙を取り入れ、座面には染めた「い草」で「くまモン」が編み込まれたデザインとなっており、木製部分は谷口木工所(野津)で製作されました。



▲発送された「いぐさ・畳表ベンチ」

出場おめでとうございます

全国・九州大会出場者激励会

2月18日、役場庁議室において、全国大会・九州大会出場者の激励会が行われました。出場選手、大会などについては次のとおりです。

- 【大会名】第37回全九州高等学校新人ラグビーフットボール大会
- 【出場選手名】橋本芳史くん(下宮 熊本西高1年)
- 【大会名】第4回びわ湖カップなでしこサッカー大会(U・12)
- 【出場選手名】稲田 雛さん(東網道 藤本 日菜さん(若洲) (共に竜北西部小5年)



▲左から稲田雛さん、藤本日菜さん

生涯学習の集大成を発表

公民館大会・人権啓発集会

2月22日、氷川町文化センターにおいて、氷川町公民館大会・人権啓発集会が行われ、約140人の参加がありました。

これは、生涯学習の推進と地域の活性化を目指すとともに、人権問題を啓発するため行われたものです。

生涯学習発表では、地域教育コーディネーターの宮村惇さん(西上宮)、ふれあい大学の小野一成さん(西上宮)がそれぞれの活動を報告。

続くモバイルネットワーク研究所の松川由美代表による講演では、インターネット環境が充実したことにより、新たに生まれた人権侵害問題などを学ぶことができました。



▲地域による教育支援活動を報告された宮村惇さん

継承される八火先生の教え

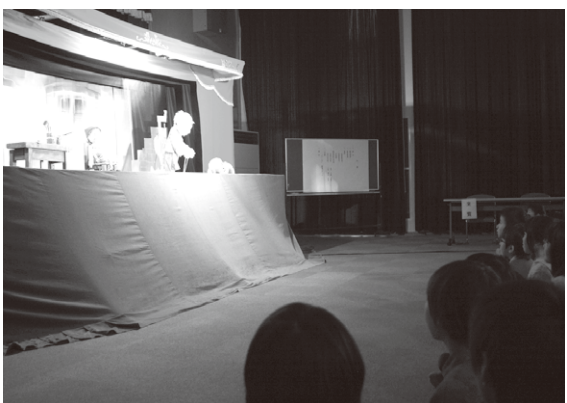
八火図書館本まつり

2月28日、氷川町公民館において、恒例の第41回八火図書館本まつりが行われました。

八火図書館は昭和48年に株式会社電通から寄贈。本まつりは、氷川町出身で、電通創始者の光永星郎氏(八火先生)の遺徳をしのび、命日の2月20日前後に行われています。

この日は、読書感想文・感想画・多読賞の表彰、生徒による読書感想文の発表が行われた他、「劇団ぱれつ」とによる人形劇が行われました。

八火図書館は振興局機能を持つ図書館として生まれ変わり、3月29日に開館。新たなまちづくりの拠点として期待されています。



▲楽しい人形劇「ピノキオ」に夢中

次代を担うひかわっ子たち

子ども会大会

3月1日、氷川町文化センターにおいて「第10回子ども会大会」が開催されました。

開会行事では、今年度他他の模範となる活動を実施した上鹿島、川上、桜ヶ丘子ども会が表彰され、事例発表が行われました。

続くステージ発表では、県人権啓発「コッコロ隊」のステージや、氷川町ジュニア・リーダークラブによるオリエンテーションで盛り上がりを見せた他、山根公子・史央さん(東上宮・宮原小5年)親子がバイオリンとピアノ演奏、三枝知史さん(上鹿島)がギター演奏を披露。素晴らしい演奏に会場は感動に包まれました。



▲息の合った演奏を披露された山根さん親子

感謝と誇りを胸に旅立ち

町内中学校で卒業式

3月13日、町内中学校において、卒業証書授与式が行われました。

竜北中学校では、保護者や在校生の拍手に包まれ、卒業生が入場。村上校長から一人一人に卒業証書が手渡されると「これから楽しいことばかりではありません。過去を振り返らず前向き、自分の手で未来をつかみとってください。そして、いつの日か世の中の役に立つ人になってほしいと切に願っています」とはなむけの言葉が贈られました。

卒業生たちは、お世話になった人たちに、歌とともに感謝の言葉を伝え、3年間の思い出が残る学び舎を巣立って行きました。



▲涙ながらに感謝の言葉を伝える卒業生